

# 名古屋外国語大学海外派遣プログラム成果報告書

2026 年 05 月 22 日

学部・学科名 世界教養学部国際日本学科

担当教員氏名 櫻井省吾

|             |                                                                                                                                                                                                                      |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 区分       | 中期留学 ・ 語学研修 ・ 海外実習                                                                                                                                                                                                   |
| 2. プログラム名称  | 銘傳大学日本語教育実習                                                                                                                                                                                                          |
| 3. 渡航先国名    | 台湾                                                                                                                                                                                                                   |
| 4. 派遣期間     | 2025 年 3 月 8 日 (日) ～<br>2025 年 3 月 21 日 (土) 14 日間                                                                                                                                                                    |
| 5. 派遣先教育機関名 | 銘傳大学                                                                                                                                                                                                                 |
| 6. 参加学生数    | 4 名                                                                                                                                                                                                                  |
| 7. 派遣目的     | 銘傳大学(台湾桃園)応用日本語学科学生を対象として、日本語授業の見学や教壇実習を行い、あわせて異文化体験や、銘傳大学の学生との交流の機会をもつこと。                                                                                                                                           |
| 8. 派遣内容     | ①事前指導：教壇実習で担当する予定の教授内容につき、授業計画立案、教案作成、授業運営について指導を受ける。<br>②教壇実習：実習生は、銘傳大学応用日本語学科の初級と中級クラスにおいて、それぞれ1回ずつ教壇実習を行なう。実習に先立って銘傳大学教員による教案指導を受け、実習後に批評・助言を受ける。<br>③異文化体験：銘傳大学の学生や教員、現地の高校生との交流を通して台湾の人と文化に触れる。<br>④実習報告書を作成する。 |

|               |                                                                                                                                                                                                                                        |
|---------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>9. 成果</p>  | <p>教壇実習に至るまでの過程で、担当する教科書や文型への理解の深め、教案作成、学生たちとの関係づくり、現地校の背景情報収集など、日本語教育に携わる教育者として必要なスキルを身につけた。教壇実習では、その後の振り返りを通して自らの教師としての知識・スキル・態度を内省し、今後の改善点を模索しながら、常に学び続ける姿勢を培った。また、現地での生活や派遣先の学生との交流を通して、台湾の文化や歴史、日本との繋がりなどを学び、異文化理解も深めることができた。</p> |
| <p>10. 備考</p> | <p>—</p>                                                                                                                                                                                                                               |

以上

## 実習生の感想 1

私は、台湾の銘傳大学での日本語教育実習に参加しました。高校生の時に台湾の学生とオンラインで交流した経験をきっかけに、日本語教育と台湾に興味を持ちました。直接台湾の学生と話し、日本語を教えたいと思い、今回の実習に参加しました。今回が初めての教壇に立つ機会だったため、実習前は大きな不安を感じていました。しかし、現地の先生や学生と関わっていく中で不安は徐々に薄れ、充実した2週間を過ごすことができました。

1回目の授業では、明るく笑顔で教壇に立つことを念頭に置き、授業に臨みました。緊張しましたが、その意識もあって学生からの発話が多く、学生主体の授業を構成することができたと感じています。一方で、アクティビティの際に最初の説明が十分に伝わっておらず、追加で説明をする場面や、時間が余って焦ってしまう場面もありました。積極的に参加してくれた学生に感謝しつつ、これらの反省点を踏まえ、2回目の教壇実習に向けて準備を行いました。

2回目の授業では、学生のレベルが大きく上がったことに難しさを感じました。使える単語や文法の量も増え、より実践的なやりとりを意識した授業づくりが必要でした。扱う文法項目を取り入れたアクティビティを考えるとところで苦労をしましたが、指導教員の先生が親身になってご指導くださり、私のしたい授業を形にすることができました。1回目と比較して、より充実した授業を展開することができ、自分自身も楽しみながら授業に取り組むことができました。一方で、誤用の訂正方法や会話の広げ方など課題も残りました。それでも、すべての授業を終えたときには大きな達成感を得ることができました。

また、現地のボランティアの方々には初日から温かく迎え入れていただき、多くの交流の機会をいただきました。授業後に桃園駅周辺へ出かけたり、休日には台北市内を観光したりする中で、台湾の文化に触れることができました。最初は中国語が話せないことで生活に困るのではないかと心配していましたが、買い物に行くときなど気にかけてくれて、安心して生活することができました。また、一緒に出かけるときには、私たちが行きたい場所、食べたいものなど希望を聞きながら行き先を考えてくれました。初日から最終日まで、常に私たちのことを気遣ってくれる姿から、優しさや温かさを強く感じました。そして、想像以上に流暢な日本語で会話をしてくれて、アニメやJ-POP、大学生活、台湾の文化などたくさん話をすることができ、とても楽しかったです。最初は何から話せばいいか分からず、私から上手く話しかけることができませんでした。し

かし、ボランティアの学生からたくさん話しかけてくれたり、いつも笑顔で会話してくれたり、話しやすい空間を作ってくれたことに感謝したいです。

## 実習生の感想 2

台湾の桃園市、銘傳大学にて、2026 年 3 月 8 日(日)から 21 日(土)まで 2 週間に渡って、日本語教育実習に参加させていただきました。2 週間は短いように思えましたが、予想を遙かに超えるほど毎日が充実し学びに溢れた時間を過ごすことができました。

第 1 週は寿山高校での授業見学や銘傳大学の日本語学科の 1 年生と 2 年生の初級と中級の授業見学をさせていただきました。高校見学は日本とは異なる教室の設備や授業の流れや雰囲気を知ることができました。日本語学科の授業見学は様々な先生の異なるレベルのクラスを見学させていただき、先生によって教え方に特徴があり、色々な方法があるのだと学びました。また、教壇実習をさせていただくにあたり、学生の方々の雰囲気やレベル、授業での先生への反応などを確認することができたのが良かったです。また、平日の活動後には学生ボランティアの方々が桃園市内を案内してくれました。週末には台北市と一緒に観光に行きました。桃園市では豆花を食べたり、ショッピングセンターに行ったりしました。学生ボランティアの方々は注文を代わりにしてくれたり、台湾語を教えてくれたりと、常にサポートをしてくださり、その優しさと心遣いに感動しました。週末には国立故宫博物館や淡水、西門などを訪れ、ごはんを食べたり、歩いたりする中でたくさんお話ができたのが良い思い出になりました。

第 2 週は桃園高校での授業見学や教壇実習をさせていただきました。教壇実習は初級のクラスと中級のクラスで 1 回ずつ担当させていただきました。実際の学習者に集団授業をする機会は今回が初めてだったため、準備のときから緊張していましたが、実際に授業をすることで多くの気づきと学びを得ることができました。

教案や資料、授業プリントの準備は想定よりも長い時間がかかり、修正を最後まで重ねて完成させることができました。準備をする中で分からない点があった際には担当の先生に色々と質問させていただき、改善をすることができました。授業を実際に行い、やはり授業は生き物のようなものであるため、本番にならないと分からないことはたくさんあること、そして、その上で準備を入念に行うことが大切だと実感しました。

まず、始めに初級のクラスで「比較」を教えました。予想していたよりも学習者の方々が質問に対して反応を示してくれたため、安心しました。ですが、問いかけをしながら授業を進める中で私が話しすぎてしまい、答えを引っ張ってしまったので、学習者が自身で答えていけるように教師が話しすぎないことも大切だと気づきました。また、授業の最後のアクティビティがこれまでの活動と比較して難易度が高く、かつ説明が不足していたために取り組みにくくさせてしまったのはこの授業での最大の反省点でした。

次に中級のクラスで、「比較」を教えました。授業冒頭で学習者の方々と自己紹介を通して、コミュニケーションを取ることができ、会話を楽しむことができたのが良かったです。一方で、ティーチャートークの難しさやクラス内の学習者のレベルの差への対応や授業時間が余った際の判断など、様々な課題と向き合いました。私は日本語教師になりたい

と考えており、今後どのように教えていきたいかについて実習を通して考えることができました。

私は今回、直接法による日本語授業を通して、日本語教育における授業づくりや指導方法について実践的に学びたいと考え、本実習に参加しました。教壇実習当日だけでなく、実習前の準備や台湾での授業見学、教壇実習に向けた準備などを通して、日々多くのことを学ぶことができました。また、台湾の学生の方々や先生方との交流を通して、台湾の文化や台湾の方々の優しさや温かさに触れることができました。

最後になりますが、本実習でお世話になった先生方、学生ボランティアの皆様、そして実習に関わってくださったすべての方々に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。